



【気象庁の業務】

気象庁では、災害の発生のおそれがある時に発表する防災気象情報、日々の暮らしに活用される情報、さらには地球環境問題といった様々な情報を適時・適切かつ分かりやすく提供することによって、自然災害の軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などに貢献することを任務としています。



この任務のため、気象や気候、海洋、地震、津波、火山等の自然現象の観測・観測、観測データの取得・収集、スーパーコンピュータ等をはじめとする各種システムを活用した解析・予測、情報の作成・提供、さらに、それらに必要な調査・研究などの業務を行っています。

【採用について】



現在気象庁では全国で約 5,000 人（うち約 4,400 人が技術系、約 600 人が事務系）の職員が勤務しています。勤務地は気象庁本庁、全国の管区・沖縄气象台、地方气象台等で、転勤は各管区等の管轄ブロック内を基本として人事異動を行っています。

なお一般職は、気象庁本庁では行政区分のみ、各管区气象台は行政区分、技術系区分（物理、電気・電子・情報、化学）の官庁訪問を行っています。

【行政区分】事務系職員として採用し、業務は大きく分けて総務系と会計系の仕事があります。総務系では職員の人事管理、給与、福利厚生、会計系では予算、契約、物品・国有財産管理などを行います。

【技術系区分（物理、電気・電子・情報、化学）】気象を始めとする自然現象の観測、天気予報や警報・注意報および地震・津波・火山等の情報作成・発表、調査統計、防災に関する普及啓発活動などを行います。

先輩職員からのメッセージ

私は平成 29 年 4 月に気象庁に採用され、総務部総務課調達管理室に配属されました。

調達管理室は会計に関する事務を行う部署であり、その中で私は契約業務を行っています。

気象庁は自然現象の監視や防災情報の発表など技術メインで事務は裏方と言われますが、私の担当している契約業務は気象庁の「今」が分かることに魅力があります。各種観測機器をはじめ、気象庁の業務を円滑に行う上で必要な調達すべての窓口となるため、気象庁がいま実施していること、これから実施しようとしていることを業務の中で直接見て肌で感じることが出来ます。

一緒に気象庁の「未来」を見てみませんか！（平成 29 年度行政区分・会計系採用）



私は、気象庁本庁の総務課に所属し、総務部長の秘書と総務課内の庶務を担当しています。施策や方針の決定や、台風や火山レベル等の報道発表の事前確認のために、総務部長には毎日多くのレクチャーが行われます。私は、部長の業務が滞りなく集中してできるよう、案件の重要度や緊急度を上司と相談しながらスケジュール管理等を行い、部長とレクチャーに来られる方との橋渡しをしています。気象庁の取組みを幅広く学べるのが楽しく、自然災害から命を守る気象庁の一員として働けることにやりがいを感じています。女性も働きやすく、困ったときには上司や先輩に相談しながら仕事ができる温かい職場です。気象に関する専門知識がなくても、自然に携わる仕事をしてみたいという方と一緒に働きませんか。（平成 31 年度行政区分・総務系採用）